

2012年沖縄週間/沖縄の旅 参加のごあんない

6月22日（金）～25日（月）

ぬち

たから

命どう宝 ～わたしたちが頼るべきもの～

「キリストに結ばれて歩みなさい」 コロサイ2：6

幾度も思い返し心に刻みたい沖縄の言葉があります。その一つは阿波根昌鴻（あはごんしょうこう）さんの言葉です。「平和とは人間の生命を尊ぶことです」「すべて剣をとる者は剣にて亡ぶ（聖書） 基地をもつ国は基地で亡び 核を持つ国は核で亡ぶ（歴史）」これは、1984年に阿波根さんたちにより伊江島に開設された、戦争の遺品と平和のためたたかった人々の足跡を紹介する「ヌチドゥタカラの家」の白い壁に記された言葉です。

それからもう一つは沖縄県平和祈念資料館にある「展示むすびの言葉」です。一部だけ紹介します。「この なまなましい体験の前では いかなる人でも 戦争を肯定し美化することは できないはずで 戦争をおこすのは たしかに 人間です しかし それ以上に 戦争を許さない努力のできるのも 私たち 人間 ではないでしょうか。」

沖縄戦は、1945年3月に始まり、90日におよぶ「鉄の暴風」は、島々の山容を変え、文化遺産のほとんどを破壊し、20数万の尊い人命を奪い去った、と言われます。この痛みと苦しみの経験から、前述のような魂がこもる数々の大切な言葉が生み出されたのだと思います。しかしながら、沖縄戦終結時から数えて67年を経たこの国の状況はいかがでしょうか。

辺野古では、新基地建設阻止のための座り込みが15年前に開始され、海辺にテントが張られ毎日住民が通っています。少しの入れ替わりはありつつ、そこにいつもの顔が並び続けています。本来ならもう基地はいらないとの願いが速やかに聞き届けられ、すぐに解散できればよかったのですが、もはや座り込みテントの存在は日常と化しています。また、嘉手納基地で離発着訓練をする戦闘機進入路の真下には、北谷（ちゃたん）町砂辺地区があります。ここも相変わらず戦闘機が次々に、頭上間近のところを機体の腹をきらりと光らせながら、爆音を轟かせていきます。あまりの凄まじさに、そこ立っているだけでまるで脳天を叩かれたように涙が出てきます。この現実、あの沖縄戦の痛みと苦しみの言葉と思いを踏みにじり、あまりにも粗末にし続けているのではないのでしょうか。

私たちは、この沖縄の旅で9年間にわたり、「命どう宝（命こそ宝）」という言葉に冠して配したテーマを掲げてきました。今回は続く言葉として「わたしたちが頼るべきもの」を選びました。私たちはほんとうに「頼るべきもの」を見失った時代を今まさに生きているのではないのでしょうか。政治も経済も毎日の生活もそして世界全体が混迷の中にあります。

聖書が示し続けていることは、主である神に頼りなさい、ということです。でも、私たちは世の偽りにごまかされ、あるいはだまされ、富、力、権力などといったものに頼り、自ら迷いの中に身を投じてしまっているのではないかと思います。

パウロは、「あなたがたは、主キリスト・イエスを受け入れたのですから、キリストに結ばれて歩みなさい。キリストに根を下ろして造り上げられ、教えられたとおりの信仰をしっかりと守って、あふれるばかりに感謝しなさい。人間の言い伝えにすぎない哲学、つまり、むなしいだまし事によって人のとりこにされないように気をつけなさい。それは、世を支配する霊に従っており、キリストに従うものではありません。」（コロサイ 2:6-8）と述べ、私たちに「キリストに結ばれて歩みなさい」と強く命じています。厳しい言葉です。沖縄の現実を見て、真実に触れ、み言葉にしっかりと聴き、「わたしたちが頼るべきもの」を再確認する旅にしたいと思います。ぜひこのプログラムにご参加ください。

（日本聖公会正義と平和委員会 沖縄プロジェクト委員 司祭 マルコ 柴本孝夫）

※2010年第58（定期）総会にて、これまでに続いて「沖縄週間」の継続が決議されました。

これは、日本聖公会の全教区・教会が沖縄の現実に思いを寄せ、私たち自身が主の平和を求めて祈ることを目的とするものです。

沖縄教区と日本聖公会 正義と平和委員会は、この週間にあわせ、沖縄の歴史及び現在を学ぶ旅を行い、全国の皆さんをお誘いしています。ぜひ、多くの方々のご参加をお待ちしています。

沖縄週間の祈り

歴史と生命の主である神よ、私たちが平和の器にしてください。
嘆きと苦しみのただ中にあなたの光を、
敵意と憎しみのただ中にあなたの愛と赦しをお与えください。
私たちの出会いを通して悲しみの中に慰めを、痛みの中に癒しを、
疑いの中にあなたへの信仰を、主よ、豊かに注ぎ込んでください。
この沖縄週間を通して私たちにし、
あなたの示される解放と平和への道を歩む者としてください。
私たちの主イエス・キリストのいつしみによって、
このお祈りをお献げいたします。アーメン

主催 日本聖公会 沖縄教区宣教部
日本聖公会 正義と平和委員会

参加のしおり

航空券手配について

1日目の6月22日（金）の宿泊と共に、市販の「ホテルパック」で手配されることをお勧めします（航空券とホテルを別にとるよりも安く購入できます）。各地発および帰りの沖縄発の時間はできる限りプログラムに支障のないようにご設定ください。

宿泊について

- ・1日目6月22日の宿泊先は、翌23日のプログラム「平和行進」が小禄聖マタイ教会出発ですので、那覇市内で、なるべく小禄聖マタイ教会に近いホテル（同封地図参照）をご手配ください。（24日は教区「慰霊の日」礼拝後、夜、小禄聖マタイ教会での交流会をし、各ホテルへ移動となります。23日は8時「小禄聖マタイ教会」出発です。少し余裕を持ってご集合ください。参加者には後日詳細をお知らせします。）
- ・費用を抑えたい方は22日、小禄聖マタイ教会への宿泊等も手配できます。
- ・2日目 23日（教会分宿）の宿泊先は基本的には当方で手配します。
- ・3日目 24日の宿泊は、当方で手配（「ホテルラッソエアポート」の予定です）。

費用（概算）

- ・22日 ホテルパック（各自）
- ・23日 教会分宿 3,000円
- ・24日 ホテル 6,000円
- ・フィールドトリップ参加費 5,000円（精算の上、追加徴収があるかもしれません。）
- ・食事代（22日夕・23日昼・24日夕・25日昼）
2,000円程度

合計金額 各地からのホテルパック + 16,000円程度

集合時間・場所

12時30分までに 那覇空港1階「到着口B」付近へ。係の者が立っています。各自昼食を済ませてお集まりください。

集合の後、バスに乗り、フィールドトリップに出発しますので、くれぐれも時間厳守でお願いします。

スタッフ

- ・沖縄教区宣教部：部長司祭金ジョンス、司祭高良孝太郎、富本盛彦、司祭上原榮正、司祭岩佐直人、並里 厚、高良孝子
- ・正義と平和委員会：司祭磯 晴久、中村真理、佐藤由佳、司祭柴本孝夫

締め切り 5月 7日（月）

〒162-0805 新宿区矢来町65番地 日本聖公会管区事務所 正義と平和委員会宛
電話03（5228）3171 FAX 03（5228）3175

2012年沖縄週間/沖縄の旅 プログラム

6月22日(金)～25日(月)

今回は、「命どう宝 ～わたしたちが頼るべきもの～」というテーマのもとプログラムを構成しています。

以下、トピックを記します。

22日：集合しフィールドトリップ「基地を望む」。沖縄教区センターにて受付。開会礼拝。講演。

23日：小禄聖マタイ教会より、糸満市 南部の魂魄の塔に向け平和行進。途中で、沖縄戦の証言に聴き、主の平和実現のために祈ります。魂魄の塔または近くの海岸にて 平和祈念礼拝。

24日：分宿先教会の主日礼拝に参加、午後、沖縄教区行事「慰霊の日」礼拝に参加。夕、交流会。当方手配のホテルへ

25日：小禄聖マタイ教会での分かち合い、平和への取り組み・行動の今後についてわかちあい。昼食後、閉会礼拝。13時解散。

日 時\	1日目	2日目	3日目	4日目
	6月22日(金)	23日(土)	24日(日)	25日(月)
8:00	12:30 集合・出発(那覇空港) フィールドトリップ 「基地を望む」 那覇空港 嘉手納基地	8:00 平和行進 途中で、証言に聴き、 平和への祈り	朝食 各教会にて 各宿泊教会の礼拝 に出席	朝食 ホテル 移動 小禄聖マタイ教会にて 分かち合い 今後の平和への取り 組み・行動について
9:00				
10:00				
11:00				閉会礼拝
12:00		摩文仁の魂魄の塔へ 到着。礼拝。	昼食	昼食
13:00		昼食	移動	解散
14:00				
15:00				
16:00		各教会分宿へ	沖縄教区行事 「慰霊の日」礼拝参加 会場：北谷諸魂教会	
17:00		受付(沖縄教区センター) 開会礼拝	各教会に分宿	移動 (分乗し小禄聖マタイ教会へ)
18:00	オリエンテーション・夕食			
19:00	講演 高嶋伸欣氏 沖縄が置かれている 現状とこれからの 動きについて			
20:00		小禄聖マタイ教会 にて交流会		
21:00	就寝前の祈り	ホテルへ移動		
宿泊	各ホテル	各教会に分宿	当方で手配します。	

お申し込みの際して

- 下記申込書にご記入の上、日本聖公会管区事務所 正義と平和委員会宛にお送りください。
〒162-0805新宿区矢来町65番地 TEL 03(5228)3171 FAX 03(5228)3175
- 航空券手配、宿泊場所について、その他
『参加のご案内』の「参加のしおり」をよくご覧ください。
- 締切日は5月7日(月)です。

----- キリトリ -----

2012年 沖縄週間 / 沖縄の旅 申込書

ふりがな			年 齢	性 別
氏 名			歳	男・女
	※宿泊の部屋割り等の判断材料とさせていただきます。			
住 所	〒			
電 話	()	FAX	()	
携帯電話	()	Email		
所属教区 所属教会	教 区			教 会
利用航空便について				
往	日	便	那覇空港 着 時刻	:
復	日	便	那覇空港 発 時刻	:
宿泊について				
22日	ホテル () ・ 小禄聖マタイ教会 <small>※決まっていればホテルを記入。教会宿泊を希望する場合は○で囲んでください。</small>			
食事について (必要なところにチェックマークを入れてください。)				
<input type="checkbox"/> 22夕 <input type="checkbox"/> 23昼 <input type="checkbox"/> 24夕 <input type="checkbox"/> 25朝 <input type="checkbox"/> 25昼				
自己紹介欄 (ご自由にどうぞ。参加動機などもお聞かせください。)				

旅に用意するもの・服装の注意

*この沖縄週間／沖縄の旅の実施期間は、ちょうど沖縄の梅雨明けの頃になります。
この頃の雨は、一日中降り続くといった降り方ではなく、朝夕に夕立のように、
サッと降ってすぐに雨が上がります。簡単な雨具〈折り畳みの傘、ビニールの雨具〉
を用意しておくといいでしょう。

*沖縄の6月下旬の気候は、本土各地の盛夏の頃の気温と日差しです。
日中の強い陽射し(紫外線)を避けるため、「つばのある帽子」は必需品です。
とくに今回は、長時間歩く「平和行進」を予定しています。各自必ずご用意ください。
またタオル、水筒もご用意ください。

*強い日差し(紫外線)を避けるための工夫を、各自あらかじめ考えておくのもよい
でしょう。
特に肌の弱い方は、日焼け止めクリーム、袖のある上着(薄手の長袖シャツ)、
日傘、サングラスなどの用意を!

☆旅の服装で注意したいポイントは、

1. 汗を吸う素材のもの(木綿などの素材)。
2. 半ズボン、キュロットスカート、コットンスラックス、ジーンズなど、
暑さを防いで動きやすい(リラックスできる)もの。
3. 着替えは十分に用意してください。
4. 行き帰りの飛行機の中は冷房(空調)が少し寒いくらいですので、
機内で羽織る上着などは各自の判断でご用意を!
5. 約15kmの行進のため、歩きやすい靴を履いてきてください。